

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273600203		
法人名	特定非営利活動法人 秋桜		
事業所名	グループホーム 秋桜		
所在地	千葉県印西市小林4095番地1		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	平成23年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成23年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設の小規模多機能型居宅介護事業や同法人のグループホーム・デイサービスとの連携があり、法人としての理念が地域へ発信し、利用者の安心した暮らしに結びついている。</li> <li>・運営推進委員会や家族会も盛んに行い、利用者を中心とした関係作りが積極的である。</li> <li>・スタッフは一致団結し、お互いをフォローし合える信頼関係を築けている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人が各種介護サービスを実施している強みを生かし、法人の理念を地域に広め、積極的に地域に溶け込むなど地域との連携に力を割いている。管理者と職員との間に強い信頼関係があり、スタッフ会議などを通してお互いの意思疎通も十分図れている。経験年数の多い職員もあり、介護サービスに対するの自信が見受けられる。運営推進会議は、2ヶ月ごとに定期的に開催されており、多方面から出席を得て、事業所の運営に活かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中の1人として、その人らしく当たり前前の生活が営める」を事業所の理念として掲げ、常にその意識を持ち職員全員が業務に取り組んでいる。	入居者の能力を取り上げないため、能力を引き出す工夫をして、その人らしい生活ができるよう取り組んでいる。今年度は職員4人の入れ替えがあったが、新任の職員も理念を共有し、全員で業務にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や買物に出掛けの際、ご近所と挨拶を交わしたり、農作物等が届けられている。地域の行事へも積極的に参加し、ゴミ運動、老人会、保育園との交流も盛んに行っている。	地区のゴミゼロ運動への参加、近隣の住民参加による夜間避難訓練の実施、キャラバンメイトの活動を通じて認知症の講習会を開くなど、積極的に機会をとらえて、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト等の活動を通じ、認知症サポーター養成講座を開催したり、町作りの一環として、地域の人々に向け、認知症に関する情報を発信し、気軽に相談出来る事業所として役立てよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、民生委員、町内会、老人会、家族代表の多方面の委員により、2ヶ月に1回開催。活動報告、意見交換からサービス向上に活かしている。	市職員、民生委員、町内会、老人会、家族代表等により、2ヶ月に1回開催している。累計参加者が128人となり、サービスの一層の向上を目指した話し合いを持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	お互いに情報を得ながら、密接な連携を取り運営を行っている。	市が開催するキャラバンメイトの講習会に講師として参加するなどして普段から連携を取り、関係を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束・抑制をしない事が当たり前と認識し、実践している。法人内の研修において、具体的な行為も正しく理解している。	拘束・抑制をしない事が当たり前と認識し、実践している。しかし、職員の数に限りがあり、いっぺんに入居者の希望がかなえられず、「待つて」と言わざるを得ない時があり、対応を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、常に注意を払い、その防止に努めている。当法人のマニュアル委員の活動も積極的である。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度について研修を通じて学ぶ機会があり、必要な方には活用出来る様支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を通じて、十分に御説明させて頂き、不安や疑問なく御納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの発言は、殆どみられないが、声なき声を傾聴する様努めている。ご家族からのご意見・苦情は随時受けられるようになっており、その内容について会議で周知徹底し、常に改善を図っている。	個々に入居者、家族の意見や苦情はくみ取るように努力している。しかし半年に1回開かれる家族会議で話されていることが、直接情報として職員に伝わっていない。	家族会で出た要望・苦情などについて、その内容が管理者や職員に必ず伝えられるような仕組みを工夫することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・管理者会議・総会にて、現場の意見を聞いたり、互いの課題を見出す機会がある。	定期的に行われるスタッフ会議、管理者会議、年1回の総会と管理者や職員が参加する会議に多くの時間を費やしている。特にスタッフ会議は職員間の意見のすり合わせも兼ね、納得して仕事に対応できる環境にしている。	スタッフ会議に割く時間は、職員や管理者の負担となっているように思われる。検討議題を絞る、回覧で周知できるものは議題から外すなどの工夫を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に職員の働き易い環境をと心を配り、職場環境・雇用条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルを見定め、段階に合わせた講習・研修に参加出来る機会を設けている。法人内の研修は月1回開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議・キャラバンメイトの打合せ等にて、地域の同業者との情報交換を通じてネットワークをサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や不安要素を極め細やかに聴き、安心してサービスを受ける事が出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、じっくりとお話を聞き、一つ一つ解決出来る様努力し、必ず連絡を密に行い、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話の中で、支援が必要な内容を共に考え、よりよいサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を活用し、御本人主体の暮らしを重視してケアを行っている。役割を持ったり、得意な事を生活に取り入れ、共に暮らす喜びを感じて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者の心身の状態を、機会の度把握して頂き、不安や相談に耳を傾け、その解消に共に取り組み、関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は特に設定せず、いつでも来訪出来る。御家族は勿論、御友人の来訪もあり、正月・お盆・仏事等、一時帰宅等も支援している。	近所のスーパーへの買い物や床屋に出かけるなど、普段の生活維持の支援をしている。家族や友人の来訪時にはお茶やお菓子をだし、入居者にも気持ち良く過ごして貰っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者同士が良好に関わり合える場面を作り出すお手伝いを常にしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子や生活に気を掛け、折りに触れ手紙のやり取りやお話できる機会を大事にしている。退所後も家族会に在籍して下さる御家族も多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや、センター方式を活用し、日頃の状態からご利用者のペースに合わせ生き生きと暮らせるよう支援している。	入居者の表情や、ふとした言葉などから、思いや意向を把握するよう努めている。入居者と職員の会話から、信頼関係や安心感が感じられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を基に日々の生活の中での観察からのアセスメントでより深く本人を把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子観察は勿論、常に小さな気付きを見落とさない様に努め、職員全員が現状を把握出し、その人らしい暮らしが出来る様に役割や活躍が出来るように働き掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・介護職・看護職・ケアマネ・主治医の其々の角度からの意見を取入れて介護計画を作成し、月1回のカンファレンスにて情報交換し現状に合わせた計画に常に修正。家族の希望もお聞きし、計画書は丁寧にご説明させて頂いている。	月1回、職員全体会議を開催し、入居者のカンファレンスや情報共有を行っている。入居者にはそれぞれ担当職員がおり、事前に状況や課題等を集約して管理者に伝え、議題に載せている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者ごとの個人記録に日常生活の様子・健康状態等記録し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の質を維持・継続・向上させていく上でのニーズには併設した小規模多機能やケアホームとの連携で、柔軟な対応を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の舞踏ボランティアの来訪、週2回の傾聴ボランティア、消防署立会いの防災訓練等、社会資源と協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2～3週間毎の各主治医の往診 睡眠・排便状態・体重等異状がないか医師に相談し急変時・特変時及びターミナル期にも適切な医療を受けられる関係にある。	ホームでの看取り実績があり、現在、ターミナル体制の入居者もいるため、提携医との連携は密に保っている。訪問診療、24時間の電話対応などで、随時、連携を取り合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理について看護師と協働、必要に応じて医療活用の支援をしている。受診又は様子観察等、看護師に正確な情報を伝え意見を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院との連絡を密にし、職員が交代で可能な限り病院を訪れ利用者の様子を見に伺い、病院関係者との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望等十分に把握し、関係者で方針について十分に協議し、書面にて同意した対応にて最期まで支援している。又、この方針に基づき生活の場であるホームと治療・延命の為の病院との違いを家族に説明し、主治医と共に最善の支援が出来る様、今後の変化の準備も含めて看取りに取り組んでいる。	ホームでの看取りを行っている。看護師の職員がおり、提携医とも24時間連絡がとれる。点滴なども可能である。これまでの実績に基づき、重度化した入居者の食事、入浴介助なども職員が行っている。入居者、家族の意向も随時確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、対応方法について備えている。普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会い指導の基、訓練を実施。マニュアルに基づき指揮命令系統を身に付け、地域住民への働きかけも日常の延長で協働体制にある。	スプリンクラー、緊急通報装置を設置している。消防署が立ち会い、近隣住民も合同で、避難訓練を実施している。キッチン等は電化で、使わないときは電源スイッチを切っている。職員喫煙後は始末は個別管理である。	喫煙する職員のたばこの吸い殻始末は、個々に任されている。これについてもチェック体制を作るとさらに良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を傷つけるような声掛けや対応は絶対にしないという共通認識はスタッフ間で確立している。	認知症高齢者への接し方については、随時、職員間で確認しあっており、特に問題と考える声かけなどは見受けられなかった。特に、幼児言葉などを使わないよう、気をつけているとのことである。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者のペースに合わせた声掛けで力が発揮出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ボランティアの受入れ、介護相談員の訪問、保育園児との交流が計画に沿って行われている。 特に予定の無い日は、天候や入居者の希望に基づいて過ごし方を決めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人と一緒に衣類を選び、鏡の前で身だしなみを整えられるような支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を自分達の手で作るという方針に基づき、献立の段階から皆で決めている。食材も近所より差入れされた野菜を用いる事もある。買物も入居者・スタッフが一緒に行うので食材選びを楽しむ事ができる。配膳・食器拭きなども出来る部分を入居者が担っている。	入居者と職員がともに食事準備や後片付けをし、楽しく食事をしている様子が見受けられた。時にはおやつを手作りしたり、外食に出かけることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の1日の食事量・水分量は記録されており、全てのスタッフが確認している。必要に応じて看護師にも相談している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・入れ歯の手入れ等、個別対応し、定期的又は必要に応じて訪問歯科の利用を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用したり、入居者の表情を読み、さり気なくトイレにお誘いし、トイレでの排泄に向けサポートしている。	運動や歩く機会を意識的に作り、自然な排泄ができるよう支援している。水分量などもチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して、1人1人の排便チェックを行っている。状態に応じて牛乳を飲んで頂いたり、便秘薬の利用等、個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状態に応じていつでも入浴出来る様支援している。	週2回の入浴日を設けているが、状況に応じて、あるいは清潔保持のために、いつでもシャワーや入浴ができるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の気持ちを尊重し、自室でゆっくり休んで頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが管理し、確実に服用しているかチェックしている。2～3週間に一回の訪問診療の際に症状・状態の変化を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入居者は洗濯物の取り込み・たたみを手伝っている。男性入居者は、車椅子を押ししたり、買い物の荷物持ちをしている。アセスメントを通して出来る事・好きなことを把握しており、個々に合わせた楽しみや役割支援をしている。書道やキーボード・詩吟が得意な人等様々である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な買物や近隣の散歩、併設事業所への交流・訪問等、外出の機会はあるだけ多く作っている。入居者と家族と一緒に外出出来るような工夫も行っている。	ドライブ、花見、散歩、買物など、外出の機会を積極的に作っている。歩くことは大切と考え、ホーム内の移動なども、歩ける人はがんばって歩いてもらうよう、声かけしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行った際に、ご自分で好きな物を選んで頂き、レジで支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り御家族に葉書を書いて頂いたり、電話でのやり取りをして頂き、ご家族との関係を保持して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3事業所が回廊式になった中庭部分は前面ウッドデッキになっており、好天気にはデッキで開放的に食事やお茶を楽しむ事が出来る。リビングは採光も通風も心地よく、日常はリビングでTVを観たり、音楽を聴いたりして過ごす人が多い。壁には入居者の写真や書道・花が飾られ、楽しい雰囲気を作っている。	「取り出しやすい」「使いやすい」を心がけた環境整備を行っている。リビング、キッチン、居室、トイレ、浴室など、職員と入居者で協力し合い、清掃をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けのソファや椅子、二人掛けソファ等を配置し自由に過ごせるよう工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋風のクローゼットとエアコンが備え付けになっている他は、使い慣れた家具や調度品・額等を持ち込み、自分の好きな生活空間を作っている。ベッドも持込みだが、介護用ベッドが必要な入居者には当施設にてリースのベッドを用意している。	フローリング、畳、じゅうたん敷きなど、好みに応じた部屋作りとなっている。居室の清掃は入居者と職員がともに行い、天気のよい日は布団を干している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の居室には目印のネームプレートを掛けたり、トイレや浴室にも目印のプレートを貼っている。床も滑り難いようにカーペット敷きにしたり手摺も設置している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所